

大阪・関西万博応援マガジン

## EXPOST

Apr. 2023  
VOL. 03  
TAKE FREEEXPOST [エキスポスト]  
EXPO+POST(新聞)の造語。  
私たち大阪の企業がEXPO2025を  
案内し、支える万博応援マガジン。

## あと2年 21世紀の国生みスタート

## 2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)起工式



13日、大阪・関西万博の起工式であいさつする岸田首相。いよいよ会場の建設工事が始まる(提供:共同)

大阪・関西万博  
起工式を開催

2025年大阪・関西万博の開幕まで13日でちょうどあと2年。同日、会場となる大阪湾の人工島、夢洲(ゆめしま)で起工式が行われた。今後、パビリオンやシンボルとなる大屋根リングなどの建設工事がスタートする。夏ごろには前売り入場券の販売も始まり、開幕ムードが少しずつ高まりそうだ。

これまでに万博への参加を表明したのは153か国・地域、8国際機関。昨年10月に日本国際博覧会協会がパビリオン建設や展示方法などを説明する国際企画会議が開かれ、各国の責任者ら約250人が出席した。今年2月には参加国のトップを切ってスイスがパビリオンの概要を発表。パビリオンはスイスの自然や最新技術などを紹介する5つの球体で構成し、リサイクル可能な部材を使うという。

民間パビリオンへの出展が内定していた13の企

業・団体のうち、一つだけ資金集めが難航していた大阪外食産業協会(大阪市)も1月に出展が決定したと発表し、これで民間パビリオンが出揃った。大屋根リング内側の水面を舞台に開かれる「ウォータープラザ水上ショー」の協賛企業にはサントリーホールディングスとダイキン工業が内定。多様性実現の取り組みを発信する「女性活躍推進館(仮称)」に仏宝飾ブランドのカルティエが出展し、名称を「ウーマンズパビリオン」とすることも決まった。

会場建設をめぐるのは昨年秋以降、資材価格の高騰などから入札不成立が相次いでいたが、その後、再入札によって海外の要人をもてなす迎賓館などの落札業者が決まっている。万博協会はすでに下水道や電気通信設備など基盤整備の工事を開始しており、今後、会場の建設工事が本格化する。

大阪・関西万博は2025年4月13日から10月13日までの半年間、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開かれる。万博協会は内外から約2820万人の来場者が訪れると見込んでいる。

このフリーペーパーは、「第3回大阪・関西万博開催支援EXPO」に共同出展しているサンケイ総合印刷、真生印刷、デジタル総合印刷、LAB.ASの4社が万博開幕への機運醸成に少しでも貢献しようと発行しました。これで3号目となります。

サンケイ、真生、デジタル総合印刷は大阪に本社を置く印刷会社。LAB.ASは3社が共同運営しているIT企業です。13・14両日、小間番号「2-10」の4社のブースで皆さまをお待ちしています。

詳しくは  
P.3へこの新聞の1~3面は英語でも読めます  
Pages 1 to 3 are available in English as well.

# 2820万人を夢洲に 無事輸送せよ

## 万博アクセスは3つのルートで



大阪Metro中央線で4月から運行を開始する新型車両。宇宙船のようなユニークな外観が特徴だ (提供：共同)

半年間に約2820万人が訪れると予想される大阪・関西万博。しかし、大阪湾の人工島である会場の夢洲へのルートは夢咲トンネルと夢舞大橋の2つしかない。このため、マイカーの乗り入れは原則禁止され、来場者輸送の中心となるのは鉄道やシャトルバスなどの公共交通機関だ。「未来社会の実験場」を目指す万博らしく、「空飛ぶクルマ」など次世代型の交通システムも導入される。

正面がガラス張りの八角形。まるで宇宙船のような外観の列車が4月から大阪Metro中央線で運行を開始する。

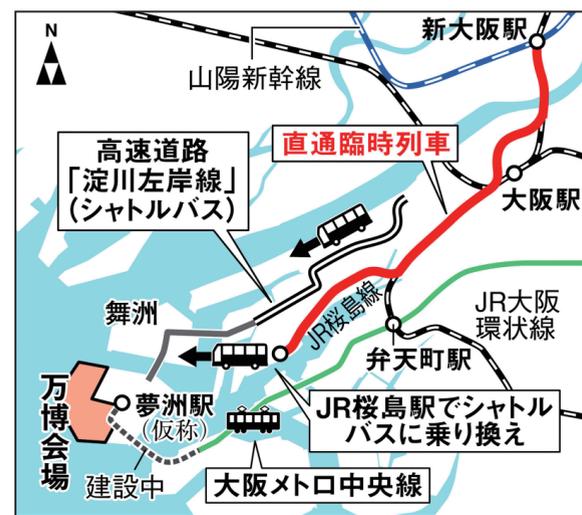
大阪Metroが大阪・関西万博に向けて開発した新型車両だ。外国人旅行者の利用を想定して車内に英語、中国語など4か国語に対応した案内ディスプレイWi-Fi (無線LAN)、スマホ用充電設備などを設置。運転士や車掌が防犯カメラ

で客席の様子を確認できるほか、混雑状況に応じて車内の温度を自動調整するシステムが採用された。ユニークな外観は「夢洲につながる未来への路線をイメージしてデザインした」という。

中央線は2024年度中に夢洲まで延伸する計画で、万博来場者の多くが利用するとみられる。大阪Metroは万博の開幕までに23編成の新型車両を導入。会期中は中央線のピーク時の運行本数を現在の16本から24本まで増やすという。同社は梅田駅、本町駅など御堂筋線と中央線の計15駅で内装などのリニューアル工事も進めている。

大阪Metro中央線と並ぶ鉄道アクセスとなるのは西九条駅と桜島駅を結ぶJR桜島線 (ゆめ咲線) だ。JR西日本も会期中、ピーク時の運行本数を9本から12本まで増やし、輸送力を拡大する計画。

### 万博会場までのルート



新大塚駅と桜島駅を結ぶ直通臨時列車も予定している。直通列車は、3月18日に大阪駅北側に開業した新地下ホームにも停車するとみられる。万博会場へは桜島駅からシャトルバスに乗り換えなければならないが、新大塚駅や大阪駅からの利用者には便利だ。

大阪環状線弁天町駅から大阪Metro中央線に乗り換える来場者も多いと想定されるため、同社は新改札口を設けるなど同駅の改装も進めるという。

シャトルバスは新大塚駅や天王寺駅、関西空港、伊丹空港など9か所のターミナルから予約制で運行される。新大塚駅や大阪駅からは建設中の阪神高速道路淀川左岸線2期区間を専用道路として暫定的に利用する計画だ。

2025年日本国際博覧会協会が昨年10月にまとめた来場者輸送アクションプランは、大阪Metro中央線、JR桜島線、淀川左岸線経由のシャトルバスの3つが主要ルートになるとみている。周辺の道路渋滞を避けるため、来場者には公共交通機関の利用を呼びかけ、マイカーでの来場は原則認めない方針だ。

やむを得ずマイカーで来場する場合は、堺市と兵庫県尼崎市の会場外駐車場に止め、シャトルバスに乗り換えるパークアンドライド方式を利用してもらう。

懸念されるのは、特定日に来場者が

集中することだ。万博のような大規模イベントでは会期末が近づくにつれて来場者が急増する。1970年の大阪万博では、閉幕まで残り1週間となった9月5日の土曜日、会期中最高となる83万5832人が来場。鉄道各社は終電を延長するなどして対応したが、それでもさばききれず、4000人以上の入場者が会場内で野宿する騒ぎが起きている。

ただ、今回の大阪・関西万博は会期前半の入場料金を割引くチケットコントロールや入場時間の予約制度を導入する。このため、万博協会は「会期末の集中を2割ほど低減できる」とし、入場者はピーク時で約22万9000人とみている。

一方、1日の時間帯では入場者の2〜3割が午前9時台に集中するため、公共交通機関で通勤ラッシュと重なることがある。大阪Metro中央線は増便しても混雑率が大阪圏の主要路線の平均を上回る約140%に達する見込みだ。JR桜島線はユニバーサル・スタジオ・ジャパン (USJ) の来場者も利用し、帰宅時間に乗客が集中するおそれがある。

万博協会では「企業に時差通勤を呼びかけるとともに、MaaS (次世代交通サービス) などの新しい技術を積極的に取り入れ、関係機関と連携して円滑な輸送を実現したい」としている。

(地図提供：産経新聞社)

### ● JR大阪駅新地下ホーム

従来の大阪駅と地下通路でつながっており、関西空港に向かう特急「はるか」などが新たに乗り入れた。「はるか」はこれまで大阪駅を経由していなかったが、同ホームの開業で大阪駅 - 関西空港間の所要時間は約20分短縮された。大阪駅北側の再開発地域「うめきた2期」にあり、同エリアへの玄関口となる。

## 空飛ぶクルマや水素燃料船も



3月に大阪城公園で行われた空飛ぶクルマの実証飛行。国内で初めてパイロットが乗り込んで屋外を飛んだ (提供：産経新聞社)

大阪・関西万博で実用化が期待される乗り物の一つが空飛ぶクルマだ。

今年2月、万博協会は空飛ぶクルマの運航事業者として、ANAホールディングス、日本航空、丸紅、スカイドライブ (愛知県豊田市) をそれぞれ中心とする4グループを選出した。各グループは会場内に整備される離着陸場 (ポート) とUSJや海遊館、大阪城近くのポートを結ぶ計画だ。

このうちANAホールディングスは、米ジョビー・アビエーションと共同でジョビー社が開発した5人乗りの空飛ぶクルマを運航する。最高時速は320キロメートルで、大阪駅から関西空港まで14分で移動できるという。スカイドライブは日本初の空飛ぶクルマ開発ベンチャーで、2人乗りの機体を使用する。

空飛ぶクルマ以外では、関西電力や大阪Metroなどが会場内の移動や会場への輸送手段としてEV (電気自動車) バス100台を導入する。特定の条件下で運転を完全に自動化する「レベル4」の自動運転を目指すという。

また、近鉄グループと岩谷産業は、水素を大気中の酸素と反応させて生まれる電気エネルギーとする水素燃料船の実用化を目指している。150人乗りの船を建造し、夢洲とUSJや海遊館のある天保山を結ぶルート想定している。

万博では、企業などが先進事業の実証実験を行う「未来社会ショーケース事業」というプログラムが用意されている。空飛ぶクルマの4グループとEVバスの関西電力などはそれぞれ同事業の協賛企業として万博協会に認定された。

### この新聞は英語でも読めます

この新聞の1〜3面は、紙とAR (拡張現実) を融合させたサービス「ARスマートペーパー」に対応しており、ARアプリ「COCOAR-ココアル」をダウンロードしたスマートフォンを使って英語で記事を読むことができます。「COCOAR-ココアル」はiPhoneとAndroidに対応しています。ダウンロードは下のQRコードから。

Pages 1 to 3 of this newspaper are compatible with AR smart paper, a service that integrates paper and Augmented Reality (AR). An English version is available with smartphones using the COCOAR AR app.

### 最初に、スマートフォンアプリ「COCOAR」をインストール!

COCOARアプリは無料のアプリです。

#### STEP 1 「COCOAR」アプリのインストール



「App Store」もしくは「GooglePlay」で「COCOAR」と検索し、インストールしてください。  
または、左側のQRコードを読み込み、「COCOAR」アプリをインストールしてください。

#### STEP 2 COCOARを起動してかざす



「COCOAR」アプリを起動し、指定画像にかざしてスキャンしてください。  
カメラマークを押すと撮影することもできます。

# 民間パビリオンはワンダーランド

## 元「万博少年」2人に魅力を聞く

大阪・関西万博には13の企業・団体がパビリオンを出展する。趣向を凝らした展示や演出で未来の世界をみせる民間パビリオンには、海外パビリオンとは異なる面白さや驚きがある。ただ、現時点では展示コンセプトや完成イメージが発表されているだけだ。そこで小学生時代に1970年の大阪万博を体験した2人の万博ファンに、当時の思い出や民間パビリオンの魅力について語ってもらった。  
(イラストは吉田高志さん)

### 53年前にみた未来

「三菱未来館がまた出展されるのは楽しみです。そう語るの藤井秀雄さん(64)だ。大阪万博当時は小学6年生。会場に11回訪れたといい、以来熱心な万博ファンになった。

大阪・関西万博では大阪万博と同じ名前で出展するパビリオンが3つある。三菱グループの三菱未来館はその一つ。大阪万博では1155万人が訪れ、100を超えるパビリオンの中で入場者ランキング8位、民間ではトップだった。

パビリオンのテーマは「日本の自然と日本人の夢」。動く歩道に乗って館内を進むと、壁面や天井・床に迫力ある暴風雨や溶岩の特撮映像が映し出され、入場者は荒れ狂う海や爆発する火山の中にあるかのような体験ができた。やがて21世紀の宇宙ステーションや海底都市へ…。日本人が自然に打ち勝ち、未来を切り開く姿を立体スクリーンやスモークスクリーンといった当時の最新技術を使ってドラマチックに演出していた。

「スクリーンに映されたサメが襲いかかってくる。超大型台風をミサイルでけちらす場面もありましたね。あんなアトラクションは初めてでした」と

藤井さんは振り返る。

映像を制作したのは、「ゴジラ」や「ウルトラマン」で知られる特撮監督の円谷英二。映画プロデューサーの田中友幸や音楽家の伊福部昭、SF作家の星新一、福島正実もかかわっていた。もう一人の石原康行さん(63)は「館内で配られたパンフレットが今見ると興味深い」と指摘する。

パンフレットの最後に「50年後のあなた」というページがあり、「家庭で世界中のテレビが見られ、プールや自家用ヘリコプターが普及する」「働く時間は1日4時間に短縮され、通勤ラッシュは解消される」と半世紀後の社会を予想していた。

「53年たって実現したものもあれば、『ガン』の克服のように実現していないものもある。未来はこうなってほしい、という思いが込められていたのです。当時の子供たちはこういう未来予測図を見て夢をふくらませていました」

### 人間洗濯機の衝撃

大阪万博で「月の石」に次いで人々の記憶に残っている展示といえば、サンヨー館(三洋電機、現パナソニック)の「ウルトラソニック・バス」だろう。



流線形をしたカプセルのなかに入ると、超音波で発生させた気泡が体を洗ってくれる人間洗濯機。「モデルさんが実演するのですが、水着姿にドキドキしました」(石原さん)。その後、実用化されなかったが、介護用入浴装置開発のヒントになったとい

われる。大阪・関西万博では、シャワーヘッドなどを手がけるサイエンス(大阪市)が進化版の出展を目指している。「人間洗濯機は発想とキャッチフレーズが斬新だった。だから、いつまでも人々の記憶に残っているのでしょう」。石原さんはそう指摘する。「これ以外にもタイムカプセルや動く歩道、電子時計といったワクワクするキャッチフレーズが登場したのが大阪万博の特長です」

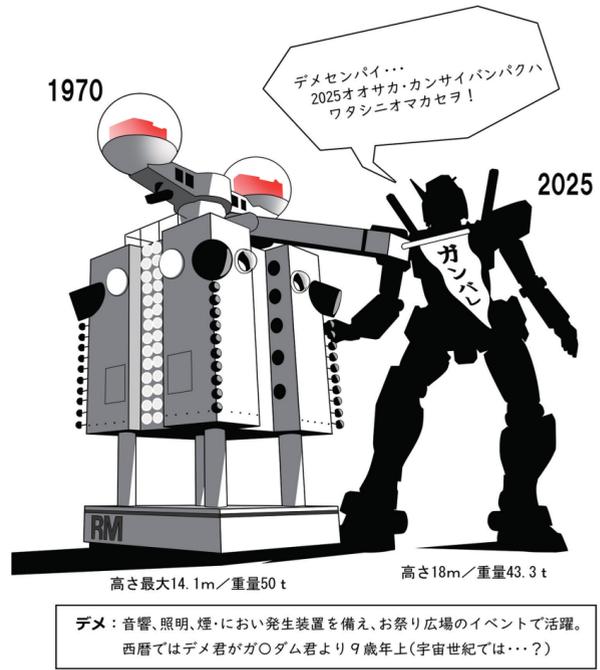
石原さんが大阪万博で一番好きだったのは日立グループ館だという。同館は、観客が操縦桿(かん)を握って飛行機の操縦を模擬体験できる展示が売り物だった。今でいうフライト・シミュレーターだが、当時はまだ本格的なCG(コンピューター・グラフィックス)などない時代。実は館内に空港のジオラマを設置し、操縦桿の動きに合わせてカメラを取り付けた天井のクレーンを移動させて離着陸シーンを撮影していた。

「今から考えるとローテクだが、子供ながらに『工夫次第で何とかできるんだ』と思いました。こういう発想は今の産業界にも欲しいものです」

### デメとガンダム

2025年大阪・関西万博で藤井さんが一番期待しているのは、バンダイナムコホールディングスが出展する「ガンダムパビリオン(仮称)」だ。人気アニメ「機動戦士ガンダム」で描かれた世界を舞台に、未来社会の課題などについて考える展示になるとされる。

実は1970年の大阪万博でもロボットは登場していた。イベントが開かれるお祭り広場にいた「デメ」と「デク」。高さ14メートルで、デメは照明・音響、スモークやにおいを発生させる装置を備え、頭部の操縦室に人間が搭乗して演出に使われた。



藤井さんは「当時はテレビマンガで鉄腕アトムや鉄人28号が活躍していたが、『本物』を見たのは万博が初めてでした。開会式に登場したものの、その後故障してしまいましたが…。ガンダムパビリオンではロボットがどう進化しているのか。興味深い」という。

### 進路を決めた万博

「私たちの世代には万博に刺激されて科学者や技術者になった人が多い。そういう意味でも大阪万博には大きな価値があったと思います」と石原さん。藤井さんは「私は万博で『これからは電気の時代だ』と思い、大手電機メーカーに就職しました」と笑う。

大阪万博で子供たちに大きな夢を与えた民間パビリオン。ただ、1970年に30あった民間パビリオンは2025年の大阪・関西万博では13と半分以下に減る。藤井さんによると、こうした傾向は2005年の愛知万博あたりから強まった。背景にはBIE(博覧会国際事務局)の方針変更があったという。「万博は各国がそれぞれの文化や歴

史を披露する場であり、企業が目立つのはよくないという訳ですね」  
そう言いながらも藤井さんは「やはり万博は別格。数は減ったとはいえ、大阪・関西万博で民間企業などがどんな面白いパビリオンを出展してくれるのか、今から楽しみです」という。石原さんはこう締めくくった。「大阪万博が開かれた1970年前後はインターネットやパソコンの基礎となる技術が登場した時期。そして今は



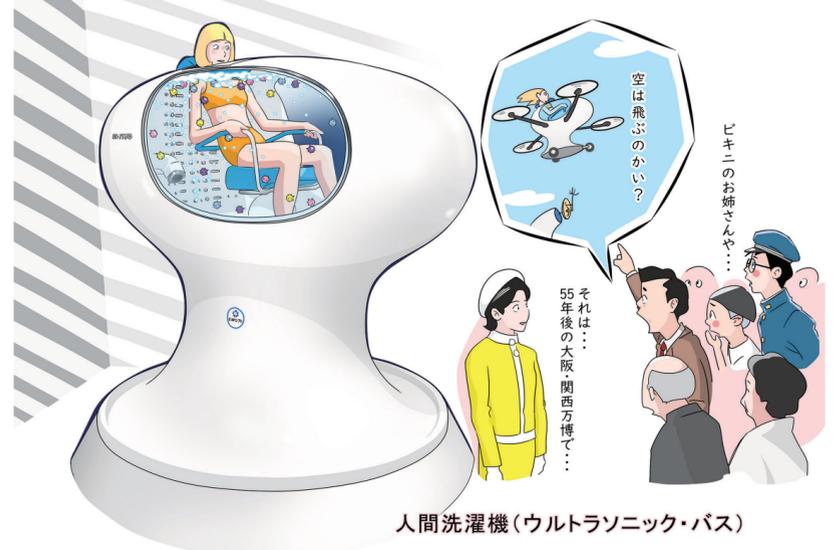
イラストレーター 吉田 高志さん  
かつて林業に携わっていたが、愛犬の死をきっかけに始めた個人サイトが出版関係者の目に止まり、イラストレーターに。林業を中心にポスターや技術本のイラストを描いたり、解説を書いたりしている。サイトには大阪万博のパビリオンやホステス(コンパニオン)のイラストと記事も載っている。自身は大阪万博に行ったことはなく、「2025年はリアルで体験できる万博として個人的にも楽しみ」と話している。吉田さんのサイト「なっちゃんとかくれんぼ」は <https://natsu-ko.com/>



藤井 秀雄さん  
これまでに訪れた博覧会は国内外で45を数える。仕事をやめて前回のドバイ万博も2度訪問したという筋金入りの万博ファンだ。友人らと「EXPO サポーターズ」という共創チャレンジのチームをつくり、大阪・関西万博を盛り上げるためのイベントを開いている。



石原 康行さん  
小学5年生の時、大阪万博に10回以上訪れ、未来の姿に魅了される。経済産業省近畿経済産業局で1990年の花博などを担当。今回の万博も誘致段階からかわり、現在は万博会場や開催時期の概念を広げる「拡張万博」を提唱し、講演活動を続けている。



人間洗濯機(ウルトラソニック・バス)

## 大阪・関西万博の民間パビリオン

(出展企業・団体とパビリオン名)

■ 飯田グループホールディングス	「飯田グループ×大阪公立大学 共同出展館」	■ 日本電信電話	「NTT PAVILION 2025 NATURAL 生命とITのくあいだ>」
■ 大阪外食産業協会	「新・天下の台所〜食博覧会・大阪2025〜(仮称)」	■ バンダイナムコホールディングス	「ガンダムパビリオン(仮称)」
■ 住友 EXPO2025 推進委員会	「住友館」	■ パナソニックグループ	「PASONA Natureverse」
■ 特定非営利活動法人ゼリ・ジャパン	「BLUE OCEAN」(ブルーオーシャン)	■ パナソニック ホールディングス	「パナソニックパビリオン(仮称)」
■ 玉山デジタルテック	「初志・創新」	■ 三菱大阪・関西万博総合委員会	「三菱未来館」
■ 電気事業連合会	「電力館(仮称)」	■ 吉本興業ホールディングス	「よしもとパビリオン(仮称)」
■ 日本ガ協協会	「ガスパビリオン」		



紀之定正一さん

# 紀之定正一

## Profile

紀之定正一 1983年、真生印刷に入社、現在、同社常務取締役兼LAB.AS取締役。地域・未来コーディネーターとして堺市を中心に大阪・泉州地域で地域貢献活動にかかわっている。

# 「しつらいの場」に

# EXPO2025は

# 森和臣

## Profile

森和臣 2007年、大阪府議会議員に初当選し、現在5期目。22年5月から府議会議長（任期は1年間）。同年9月、議員に対し「先生」と呼ばないことを副議長とともに議会に提案し、話題となった。NPO法人愛犬家から始める地域創造協議会理事長。大阪維新の会所属。



森和臣さん

「大阪で万博をもう一度開こうという話は寿司屋での会話から始まったのですよ。そう話すのは大阪府議会議長の森和臣(かずとみ)さんだ。大阪・関西万博の誘致活動にかかわってきた森さんに、開催決定までの裏話と万博への思いを聞いた。

(聞き手は真生印刷常務取締役、紀之定正一さん)

**紀之定正一さん** 万博の誘致はどんなきっかけで始まったのですか？

**森和臣さん** 2013年、当時大阪府・市特別顧問を務めていた堺屋太一先生が橋下徹・大阪市長、松井一郎・大阪府知事と大阪・北浜の寿司屋で食事をしたときのことです。堺屋先生が「大阪を成長させていくには世界的にインパクトのあるイベントが必要だ。橋下さん、松井さん、もう一回万博やろうよ」と言われたそうです。ここから2度目の大阪万博開催を模索する動きが始まりました。

**紀之定さん** 堺屋さんといえば、1970年大阪万博の生みの親ですね。

**森さん** この時、堺屋先生は「万博は国が動かないと実現しない」ともアドバイスしたそうです。それで、15年の暮れ、松井知事と橋下前市長が安倍晋三首相、菅義偉官房長官（いずれも当時）と会食した際、万博誘致の話をする、安倍さんは「いいじゃないか」と賛同してくださった。当初、経済界などは消極的でしたが、その後、安倍さんが臨時国会で「万博は地域経済活性化も期待できる」と表明したことで、一気に誘致活動が動き出します。大阪・関西万博が実現したのは安倍さんのおかげです。菅さんにも

骨を折っていただいたと思います。

**紀之定さん** 森さんは府議会の誘致特別委員会委員長に就任されました。

**森さん** 委員会は18年5月、大橋一功・府議会議長(当時)を団長に2泊4日の強硬スケジュールでイタリア・ミラノとサンマリノ共和国を訪問しました。ミラノは2015年に万博を開催しており、その経験を知ることに。サンマリノは2025年万博の開催地を決定するBIE(博覧会国際事務局)総会で支持をお願いするのが狙いでした。とくに参考になったのが万博決定時のミラノ市長、レティツィア・モラッティさんの「国と地域、経済界が一体となって誘致することが大事」「大きな国も小さな国も同じ1票。投票前日まで働きかけなければならない」という話。帰国後、府議会で提出した緊急提言にも反映させていただきました。

**紀之定さん** BIE総会は11月。時間はあまり残っていませんでした。

**森さん** 日本が一つとなっているのを示すには、大阪だけ盛り上がりつつあるだけではダメです。それでわれわれは議長や副議長、他の会派の皆さんにも手分けしてもらって全国の議会を回り、最終的に全国46都道府県議会で万博誘致を決議し

ていただきました。関西経済連合会の松本正義会長をはじめ、関西経済界にも本当に協力してもらいました。

**紀之定さん** 総会で日本はロシアやアゼルバイジャンに勝って2025年万博の開催が決定します。大阪が誘致に成功した決め手は何だったのでしょうか。

**森さん** やはり大阪府と大阪府が一体となって誘致活動をしたのが大きかったと思います。大阪府は2008年夏季五輪の招致に手をあげ、北京に負けましたが、この時、府と市はバラバラでした。今度の万博の会場となる夢洲は大阪市港湾局などの土地です。以前のままでしたら、府だけで「万博を開きたい」と言っても実現しなかったでしょうね。

**紀之定さん** 1970年の万博では大阪館はありませんでしたが、今度の万博では府と市、経済界が「大阪ヘルスケアパビリオン」を共同出展しますね。

**森さん** 大阪は中小企業の町ですが、中小が単独で万博にパビリオンを出展するのはハードルが高い。それで週替わりで中小企業やスタートアップが出展し、自社の技術や商品、アイデアを紹介してもらうのが大阪パビリオン。これはわれわれがずっと要望していたものです。出展した企業にはそこで世界に向けて情報を発信し、成長への起爆剤にしてみたいと思います。将来、「2025年の万博がわが社のターニングポイントとなった」と振り返ってもらえるようになれば、今度の万博は太陽の塔のように閉幕後も残るも

のではありません。ただ、大阪パビリオンは「いのち輝く未来社会のデザイン」という万博のテーマを象徴するものとして、施設の一部をレガシーとして残すことになっています。

**紀之定さん** わが社(真生印刷)は堺市などで市民の皆さんに工場を見学してもらった「オープンファクトリー」に取り組んでいます。万博に来られた国内外の方に堺や東大阪、八尾に足を伸ばしてもらい、日本の製造業の現場を見てもらうのもいいのではないのでしょうか。

**森さん** それはいいですね。せつかく地元で開かれるのだから、大阪の人は万博を楽しむだけでなく、万博に参加して内外のお客様を迎える側になってほしいと思います。万博の主役は、政府や自治体、大企業だけではなくありません。大阪パビリオンのように中小企業やスタートアップが関わることでできる場がありますし、紀之定さんがおっしゃったように、堺や東大阪の工場を見学してもらうこともできる。一般の人ならボランティアに応募したり、イベントに出場したりするなど、いろいろな参加方法があります。大阪・関西万博は「パッチャル万博」としてオンライン空間にも会場が設けられますから、自宅にいながらアバター(分身)として参加することも可能です。

**紀之定さん** SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた活動などを支援する万博のプログラム、共創チャレンジにはすでに市民グループなどの1000件近

い活動が登録されています。今度の万博は参加型万博といえます。

**森さん** 万博は「しつらいの場」だと思います。つまりお客様を迎える場所です。われわれはその場所を用意し、必要なら規制緩和もします。しかし、それを活用するのは皆さんです。万博を訪れた人には自分たちの地元にも来てもらっ

今度の万博は「大阪・関西万博」です。から関西各地の皆さんとも手を携えて行きたいですね。そして万博を一過性のイベントで終わらせてはいけません。大事なのは万博が終わった後です。

**紀之定さん** 大阪・関西万博は「未来社会ショーケース事業」として、空飛ぶクルマなど、さまざまな最先端技術の

社会実験が行われます。それを今後の発展に活かすことが求められます。

**森さん** 海外では、ベイエリアが活性化している都市は発展しています。しかし、大阪はこれまでベイエリアが弱かった。港湾機能をもて大阪港と神戸港は韓国の釜山に負けています。でも、夢洲は万博の次にIR(統合型リゾート)も控

えています。昨年4月には、夢洲とJR大阪駅前の「うめきた2期」が最先端技術の実証実験を地域全体で行う「スーパーシティ特区」として国に指定されました。この2つの地区から大阪も大きく変わっていくのではないのでしょうか。将来きっと、「大阪で万博を再びやってよかった」と言えるようになると思います。

## リボンチャレンジ 中小企業の参加を募集

大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオンで行われる中小企業やスタートアップ向け支援事業「リボンチャレンジ」に参加する企業の募集が始まった。26の募集テーマがあり、参加企業には週替わりで出展してもらう。万博の会期中だけでなく、準備期間や開催後も視野に入れたサポートが行われる。



中小企業やスタートアップ向けの展示・出展ゾーンが設けられる大阪ヘルスケアパビリオンの予想図(提供:大阪パビリオン)

大阪府・市・経済界が共同出展する大阪パビリオンのテーマは、生まれ変わりを意味する「REBORN(リボン)」。

1階にリボンチャレンジを行う展示・出展ゾーン(面積約160平方メートル)が設けられる。同事業は大阪の中小企業やスタートアップに自社の技術力や革新的な製品を紹介してもらうのが狙い。取りまとめ役の金融機関や公的企業・団体がすでに決まっており、それぞれ設定したテーマに応じて参加企業を募集する。1テーマの出展期間は1週間、10数社の出展を想定している。

取りまとめ役の一つ、大阪商工会議所は「ウェルネスを実現するテクノロジーと空間」など3テーマで募集中。展示ゾーンにオフィス空間を再現し、働く人の健康問題を解決し、社員同士の活発なコミュニケーションを促す製品やサービスを出展してもらう。

関西大学は「学理と実際の調和」、池田泉州銀行は「大阪発!ワクワクする未来の暮らし」など、関西イノベーションセンターは「観光産業から関西を元気に」をテーマに募集中。今後、大阪産業局や八尾市、三

菱UFJ銀行なども募集を開始する。

募集対象は原則として大阪府内に活動拠点を持つか、大阪の企業と連携して新たな製品やサービスを研究開発している中小企業やスタートアップ。出展費用は取りまとめ役によって異なり、大商は100万円、関大は10万円などとなっている。自社の展示にかかわる費用は自己負担となる。応募締め切り後、それぞれ選考が行われる。

出展企業へのさまざまな支援メニューが用意されるのもリボンチャレンジの特長だ。「ライフサイエンス/ヘルスケア」など4テーマで募集中のりそなグループは、大手企業とのビジネスマッチングや他の参加企業との連携によって「アイデアが社会実装に至るまでの伴走支援を行う」としている。

リボンチャレンジの詳細は大阪パビリオンのサイト(<https://osaka2025.site>)。

◇

同パビリオンでは、来場者が中に入ると健康状態を調べられる「ポッド」を設置し、その人に合った食事を館内のレストランで提供する展示などが予定されている。

# あなたをEXPO'70の世界へ

## サンケイ総合印刷/真生印刷/デジタル総合印刷/LAB.AS

「第3回大阪・関西万博 開催支援 EXPO」のサンケイ総合印刷、真生印刷、デジタル総合印刷、LAB.ASのブースの目玉展示は、1970年大阪万博の会場上空を空飛ぶクルマで飛んでいるかのような疑似体験ができるパノラマコンテンツです。

万博記念公園（大阪府吹田市）にある記念館「EXPO'70パビリオン」に横6.8メートル、縦4.5メートルの巨大な大阪万博の会場模型が展示されています。ペーパークラフト作家の進太郎さん（60）が10年以上かけて制作したもので縮尺は300分の1。太陽の塔やパビリオンはもちろん、会場内の街路灯や樹木まで再現した精巧なジオラマです。

パノラマコンテンツで使う映像は、万博記念公園マネジメント・パートナーズのご協力を得て、この模型を小型360度カメラで撮影して作製しました。

進太郎さんは電気メーカーの元技術者。会場模型づくりは2007年、図書館で万博パビリオンの図面集を見つけたのがきっかけでした。1970年当時は小学2年生。その光景は衝撃的でした。工作が得意で、紙や粘土でパビリオンの模型を作ろうとした思い出もあり、「あの感動をもう一度再現したい」とペーパークラフトで再挑戦することになりました。

最初に制作したのは、一番好きだった三菱未来館。縮尺は1000分の1でした。やがてエキスポランドを除く会場全体が完成し、万博ファンが集まるイベントに出品したところ、評判に。日本万国博覧会記念機構の目に止まり、2009年からより大きな300分の1サイズのジオラマづくりを始めました。

作業は図面からパビリオンの構造を解析し、ペーパークラフトの展開図を作ることから始まります。この工程が一番難しいといいます。最も時間がかかったのは住友童話館。9個の球体ドームを立体架橋で支える複雑な構造のため、3か月かかったといいます。作業は休日に行い、大阪万博開幕50周年にあたる2020年に全パビリオンが完成しました。

今年2月に会社を定年退職し、自由になる時間が増えたという進太郎さん。「万国博は子供たちに夢を与えるイベント。今度は大阪・関西万博の会場模型に挑戦したいですね」と話しています。

撮影した360度写真を使ってデジタル総合印刷がパノラマコンテンツを作成。「大阪・関西万博開催支援 EXPO」のブースでは、来場者の皆様にVR（バーチャル・リアリティ）ゴーグルを使って関



「EXPO'70パビリオン」の会場模型を撮影するデジタル総合印刷のスタッフたち

覧していただきます。担当者は「万博会場の上空を空飛ぶクルマで飛んでいるような体験ができます。ペーパークラフトの温かみのある世界も魅力」としています。今後、写真から立体的な3DCGモデルを

作り、VRで自由に散策できるコンテンツも作成する予定です。

真生印刷は「SDGsポスターコンクール」や南大阪地域でのファクトリズムなどの活動を紹介します。

## 動画スタジオのある印刷工場

サンケイ総合印刷はフジサンケイグループの一員として長年の新聞づくりでつちかした技術やノウハウを持ちます。いま手に取っていただいているフリーペーパー「EXPOST」が最大の売り物です。

大阪・西九条の本社工場は、大阪・関西万博が開かれる夢洲まで車で約20分の場所にある、「万博会場に一番近い新聞印刷工場」。企画・取材やレイアウトといった紙面作成にも対応します。

昨年暮れに本社内に動画配信スタジオが完成しました。4K撮影に対応したビデオカメラのほか、パソコンやビデオスイッチャーなど配信に必要な機材を完備。壁面がグリーンバックとなっており、ク

ロマキー合成にも対応できます。スタジオは外部の皆様に使っていただくことも可能です。問い合わせはサンケイ総合印刷（電話06・6462・1951）へ。



スタジオで行われた動画の収録

### サンケイ総合印刷株式会社

- 本社：大阪市此花区西九条2-14-6
- 電話：06-6462-1951
- 設立：1961年



### 真生印刷株式会社

- 本社：堺市堺区神南辺町5丁152-2
- 電話：072-225-5001
- 設立：1953年



### デジタル総合印刷株式会社

- 本社：大阪市東住吉区杭全2-10-1
- 電話：06-7178-5151
- 設立：1952年



### 株式会社LAB.AS

- 本社：大阪市此花区西九条2-14-6
- 設立：2021年

